

「持続可能な市民自治のまち」を目指して

# 新しい小田原へ！

おだわらを拓く力 加藤 憲一

寄稿



## 市民が創る マニフェスト

「おだわらを拓く力」では、加藤けんいちの提示する政策構想をたたき台として、多くの市民の皆さんと一緒に「マニフェスト」へ仕上げて行きたいと考えております。「新しい小田原」を実現するための効果的な政策提案、あるいは個別具体的な施策アイデアなどを、「拓く力」へとお寄せ下さい（FAXまたはメールにてお願いします）。3月には、「市民が創るマニフェスト」として発表させていただきます。

**かとうけんいち**  
1964年小田原生まれ。小田原高等学校、京都大学法学部卒業。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、事業開発などを経て、現在は有限会社あいらびの代表取締役。妻と子ども二人の4人家族。

**おだわらを拓く力** 加藤けんいち後援会  
代表／飯田 和  
小田原市栄町2-13-1-2F TEL0465-21-5260  
powers@mbn.nifty.com FAX0465-21-5261  
http://www.katoken.info 加藤憲一日記 更新中！

2008年が幕を開けました。市民の皆さまの誰もが、明るい希望に向かう一年となることを心より願っておられると存じます。様々な課題を抱えた小田原にとって、今年はまだに正念場。確かなビジョンのもと、市民と行政が一体となって地域の未来を創り始める元年としましょう。

## 収入減・支出増の時代 地域再生は不可避の課題

周知の通り、日本の地域社会は、低成長と人口減少の時代を本格的に迎えます。生産人口の減少と高齢世代の増大は、自治体にとって「歳入の先細り」と「社会コストの増大」が同時に地域に到来することを意味します。これまでの考えや仕組みのままでは、地域を健全に運営することが難しくなるのです。

## 市民と行政が共に 地域の未来を創る

道のりは、市民にとって行政にとっても、試行錯誤の連続でしょうし、一人ひとりの自主性と行動、十分なコミュニケーションを不可欠とする、今までのような「おだわら」の未来が、ひいては日本の未来があるのだと、私

## 100年先を考えた 新しい地域モデルを

豊かな資源に恵まれ、様々な可能性を持つ小田原。それは、低成長・人口減少の時代になっても続けてゆくことのできる地域モデルとすることができ、私はその確信していますし、それが私たちの時代の使命でもあると思います。

諸先輩方がここまで築き上げた地域の資産と営みを基礎として、向こう50年100年と続けてゆける新たな歩みを、ここから始めようではありませんか、継承です。

